～ 第 59 回 ～

景気動向調査結果

－ 令和8年1月分 －

［ 調査概要 ］

1 調査対象期間　令和7年 10 月～令和7年 12 月

2 調査対象企業数(H27～)

・卸・小売業	16
・建設業	16
・製造業	36 （うち伝統産業 20）
・宿泊・飲食業	16
・サービス業	16
計	100 社

3 調査方法　訪問による聞き取り調査

4 回答率　100% （100 社）

飯田商工会議所　中小企業相談所

1 総　論

売上高・受注高は、全体では前回調査からやや減少し、業種間で差がみられる結果となりました。卸・小売業はマイナスでの横ばい、製造業、宿泊・飲食業では増加となっていますが、建設業、サービス業では落ち込みが目立っています。

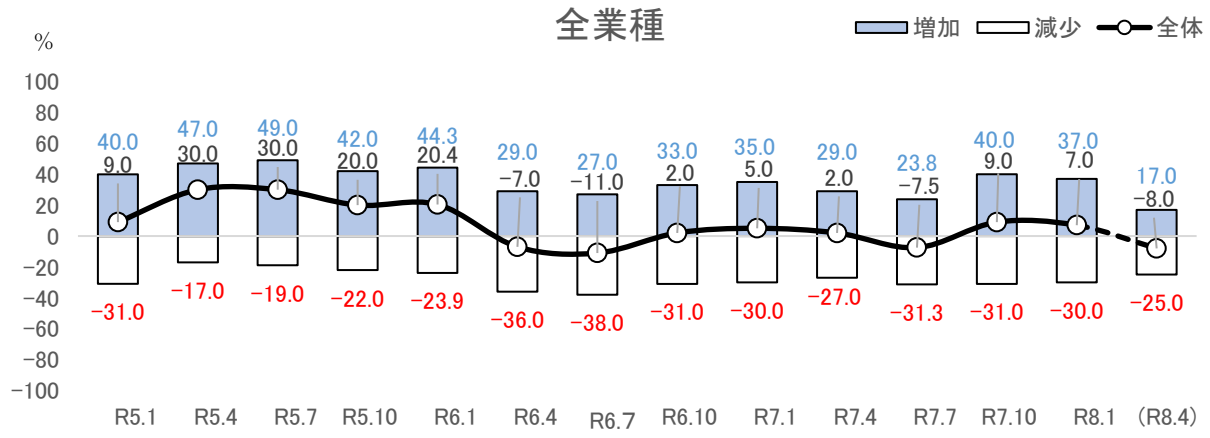
コスト面では、原材料費や人件費を中心に上昇が続いており、依然として経営への影響が大きい状況です。資金繰りについては変わらないが大きくなっていますが、コスト上昇の長期化を背景に、先行きへの警戒感もみられます。全体としては先行きについては慎重な見方が続いています。

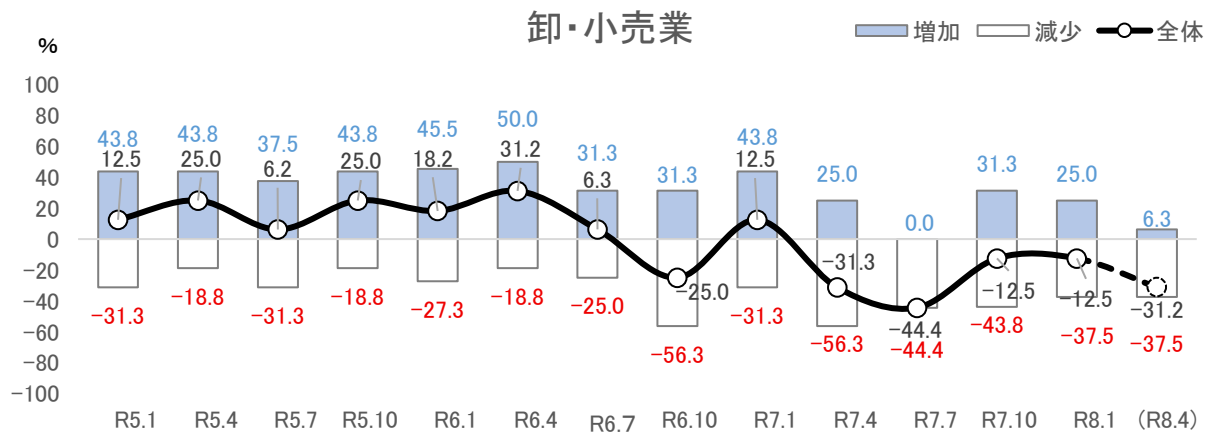
2 売上高・受注高 －前年同期との比較、今後3か月の予想－

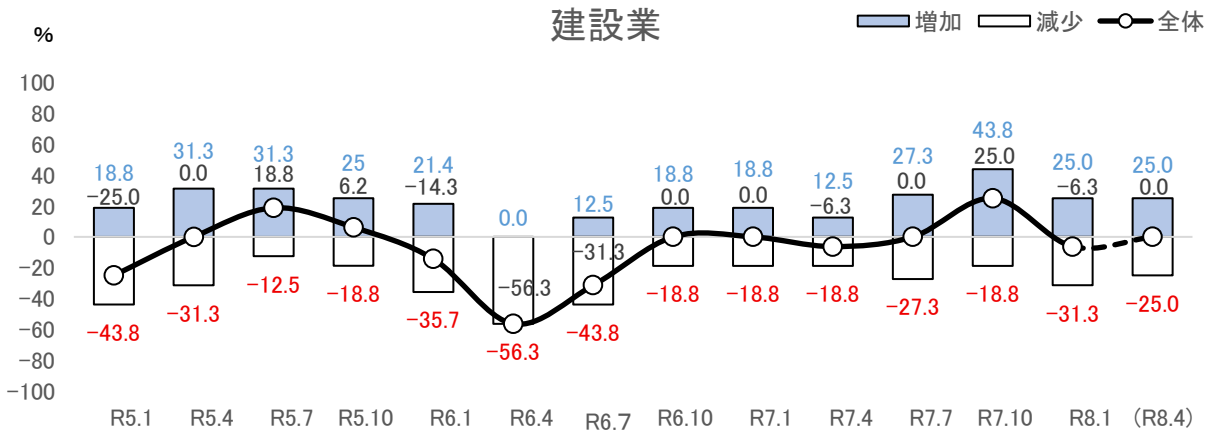
前年同期との比較では、全業種では 7.0 ポイントと小幅な回復となりました。

卸・小売業では、単価上昇による増加がみられる一方、物価高や金利上昇を背景とした消費控えの影響から減少する企業もあり、依然として△12.5 ポイントでマイナスとなっています。建設業では、土木や鉄工関係で減少回答が増えており、△6.3 ポイントと落ち込みを見せています。前回よりも手持現場数、受注総額の増加回答が減っています。製造業では、新規受注や大口案件の獲得などにより増加した企業がみられ 13.9 ポイントに微増、一方で海外経済の減速や取引先の在庫調整の影響を受けた企業もありました。宿泊・飲食業では、宿泊客数の増加やインバウンドの増加などがあり、50.0 ポイントと大きく回復しました。サービス業では、単価を上げてはいるが、受注減少の影響が大きく、△18.8 ポイントに落ち込んでいます。

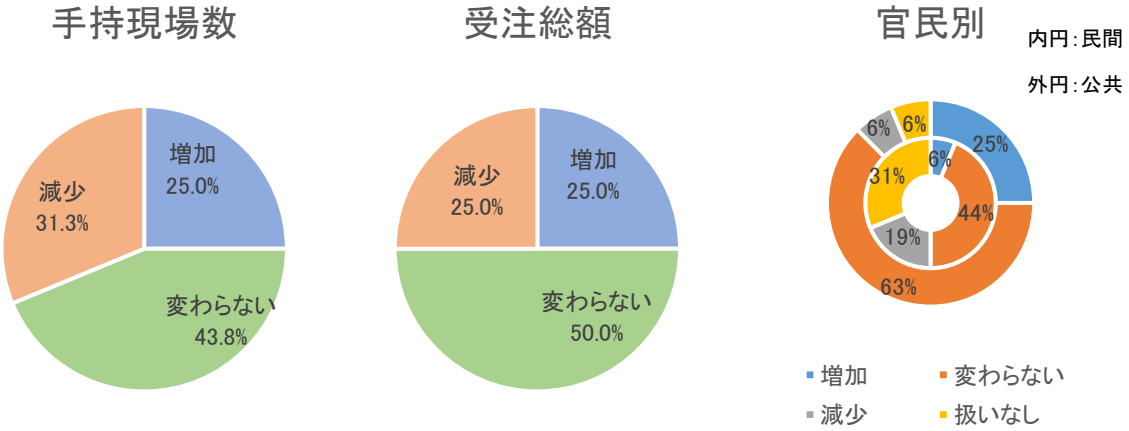
今後3か月の見通しは、全業種では△8.0 ポイントと先行き慎重な見方が多くなっています。

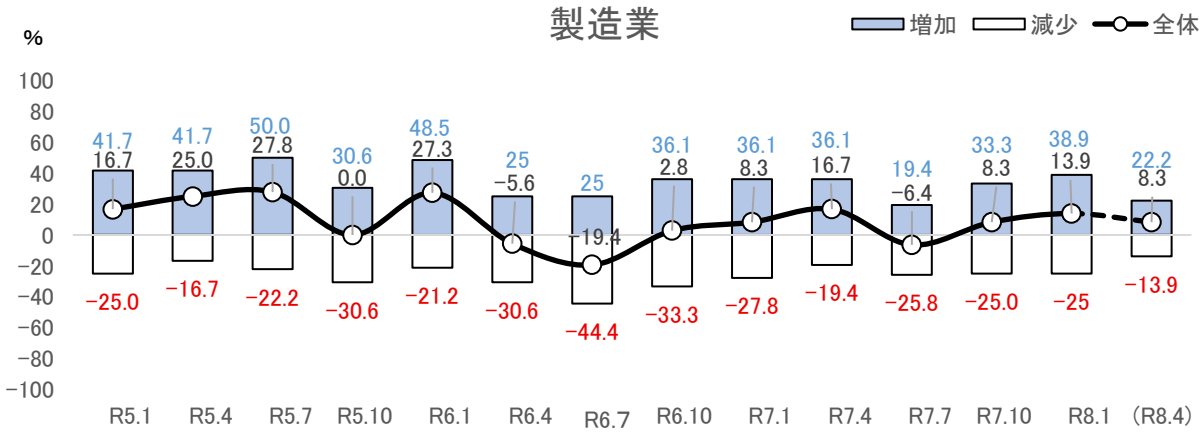




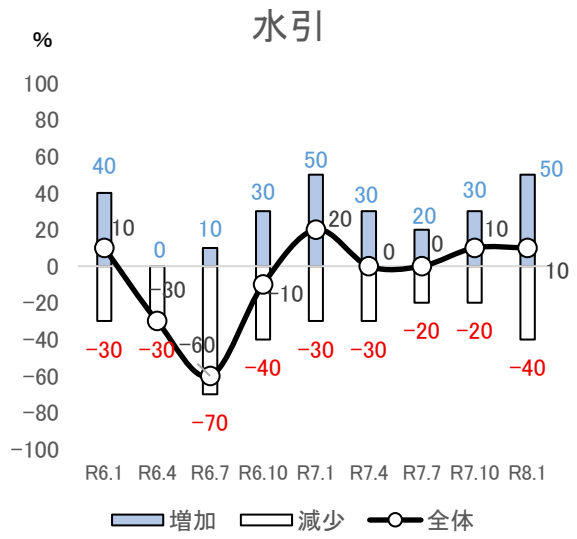

建設業
増加
減少
全体
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
18.8
−25.0
−43.8
31.3
0.0
−31.3
31.3
18.8
−12.5
25
6.2
−18.8
21.4
−14.3
−35.7
0.0
−56.3
−56.3
12.5
−31.3
−43.8
18.8
0.0
−18.8
18.8
0.0
−18.8
12.5
−6.3
−18.8
27.3
0.0
−27.3
43.8
25.0
−18.8
25.0
−6.3
−31.3
25.0
0.0
−25.0
R5.1
R5.4
R5.7
R5.10
R6.1
R6.4
R6.7
R6.10
R7.1
R7.4
R7.7
R7.10
R8.1
(R8.4)

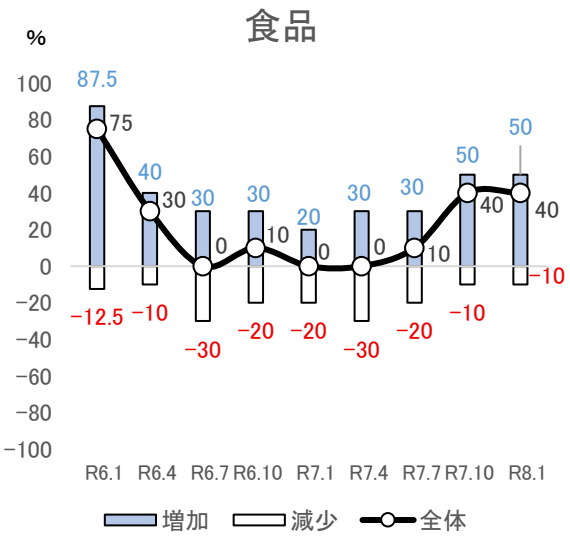
（建設業）

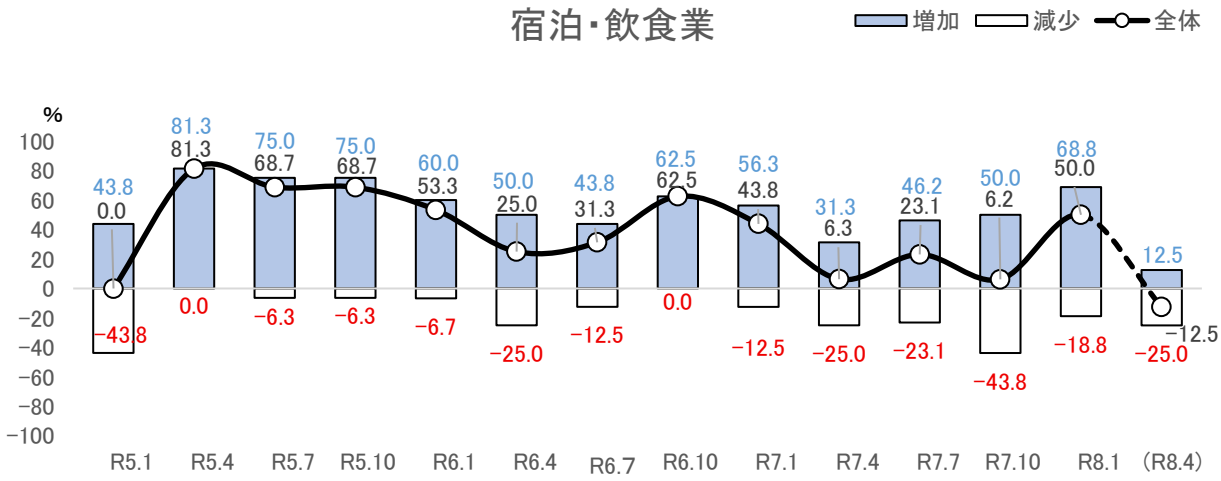

手持現場数
増加
25.0%
減少
31.3%
変わらない
43.8%
受注総額
減少
25.0%
増加
25.0%
変わらない
50.0%
官民別
内円：民間
外円：公共
6%
6%
25%
6%
31%
44%
19%
63%
増加
変わらない
減少
扱いなし

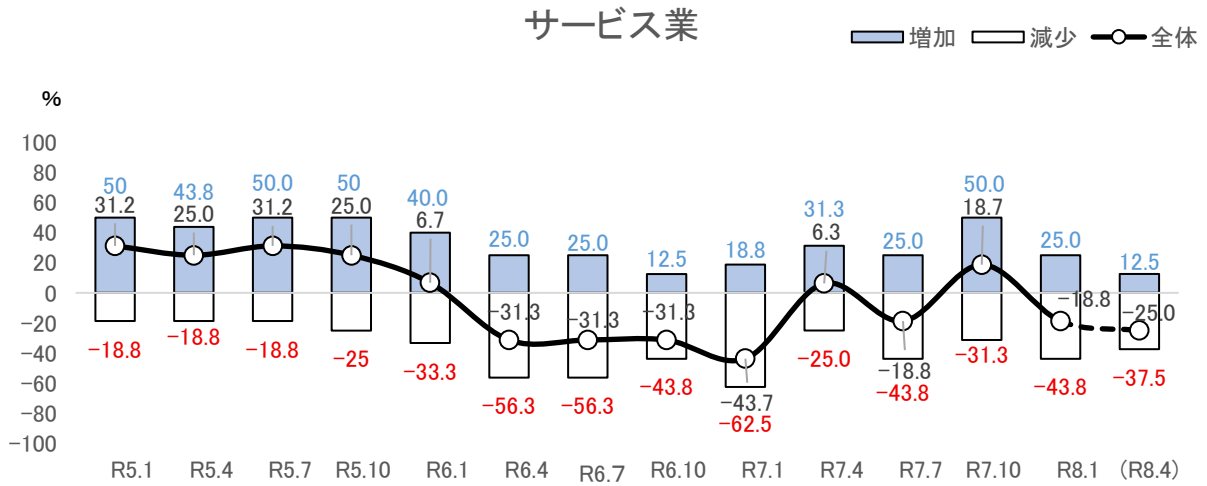

製造業
増加
減少
全体
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
41.7
16.7
−25.0
41.7
25.0
−16.7
50.0
27.8
−22.2
30.6
0.0
−30.6
48.5
27.3
−21.2
25
−5.6
−30.6
25
−19.4
−44.4
36.1
2.8
−33.3
36.1
8.3
−27.8
36.1
16.7
−19.4
19.4
−6.4
−25.8
33.3
8.3
−25.0
38.9
13.9
−25
22.2
8.3
−13.9
R5.1
R5.4
R5.7
R5.10
R6.1
R6.4
R6.7
R6.10
R7.1
R7.4
R7.7
R7.10
R8.1
(R8.4)

（伝統産業）


水引
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
R6.1 R6.4 R6.7 R6.10 R7.1 R7.4 R7.7 R7.10 R8.1
増加
減少
全体


食品
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
R6.1 R6.4 R6.7 R6.10 R7.1 R7.4 R7.7 R7.10 R8.1
増加
減少
全体


宿泊・飲食業
増加
減少
全体
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
R5.1 R5.4 R5.7 R5.10 R6.1 R6.4 R6.7 R6.10 R7.1 R7.4 R7.7 R7.10 R8.1 (R8.4)

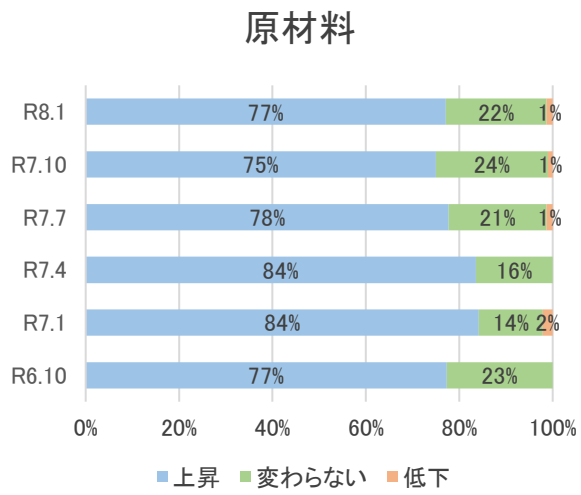

サービス業
増加
減少
全体
%
100
80
60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
R5.1 R5.4 R5.7 R5.10 R6.1 R6.4 R6.7 R6.10 R7.1 R7.4 R7.7 R7.10 R8.1 (R8.4)

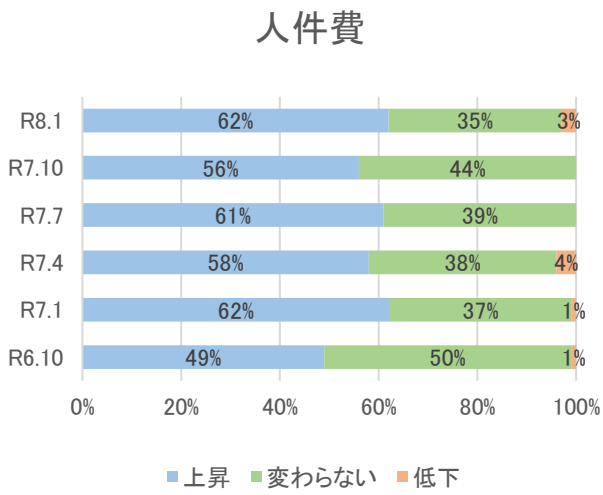
【主なコメント】
◆増加要因
・自動車の単価アップにより（卸・小売）
・物価上昇による購買単価の上昇（卸・小売）
・新規案件が増え、受注も増加した（製造）
・実習生の増員（製造）
・銀行統合の折に配られた記念ノベルティの大口発注があった（製造）
・新規受注が増加している。（製造）
・コロナの影響が落ち着いてきてお客様が少しずつ増えている（製造）
・単価を上げたため金額は上がったが数は減っている（製造）
・10，11 月の宿泊客増加（宿泊・飲食）
・インバウンドの増加（宿泊・飲食）
・道の駅の開業の影響（宿泊・飲食）
・格安プランの廃止、単価を上げた（宿泊・飲食）
・運賃値上げ単価が増えた（サービス）
・物量は減少したが単価が上昇（サービス）
・商品の値上げ（サービス）
◆減少要因
・１月の出だしが良くない、３月の値上げ前に飛び込みがあるかどうか（卸・小売）
・住宅金利上昇による需要の減少（卸・小売）
・物価上昇により野菜の買い控え（卸・小売）
・物価高騰による購買品の優先順位が低いため売り上げが減少していると感じている（卸・小売）
・数%増、特に要因はなし（卸・小売）
・トランプ関税及び中国経済の低迷の影響（製造）
・物価上昇により食品の買い控えのため減少（製造）
・卸先の在庫調整あり（製造）
・事業の立て直しによる収益の上昇（宿泊・飲食）
・宴会は昨年同様、ブライダルが落ちこんでいる（宿泊・飲食）
・忘年会利用が週末および年末に集中、当日客の利用が少ない（宿泊・飲食）
・家族での利用が多かった、また地元の子供・学生に割引をしていた（サービス）
・年賀状印刷　前年比3割減少（サービス）
◆今後 3 ヶ月予想
（好転）
・機器入れ替えのタイミングが来る（卸・小売）
・自動車はまた動き始めた、また、半導体の動きからやや上向きに振れると予想する（製造）
・実習生の増員（製造）
・安定している（製造）
・中国からの観光客が減り国内のホテル等予約しやすくなり好転する（製造）
・昨年以降受注が増加し続けているメーカーがある（製造）
・利用者数が増えた（サービス）
（悪化）
・今後の金利上昇により悪化する（卸・小売）
・各社棚卸時期のため受注が減少する（製造）
・昨年 8 月から量が伸びないため悪化予想（製造）
・同業他社がやめていくことにより自社は好転するが業界としては問題（製造）
・変わらないもしくは悪化する（製造）
・1，2 月は毎年休館（宿泊・飲食）
・事業の縮小による減収（宿泊・飲食）
・物価高騰による消費控えがみられる。（宿泊・飲食）
・昨年に対して、中国・台湾からの団体予約が少ない（サービス）
・インフル等での直前のキャンセルが多い（サービス）
・客数の減少により、定休日を１日増やすこととした為、悪化予想。（サービス）

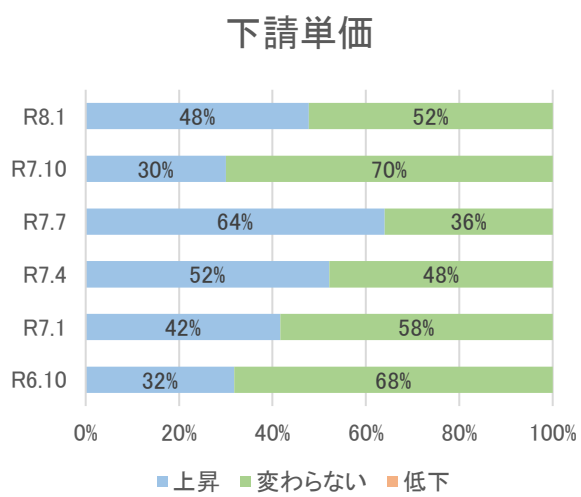
3 コストの状況 ー前年同期と比べてー（全体）

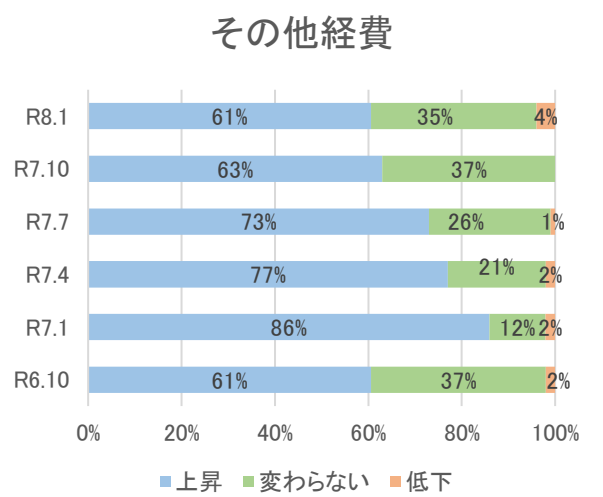
コストの状況は、原材料費、人件費、下請単価、その他経費のいずれも上昇回答が高くなっています。

原材料費では、価格の上昇、高止まり、為替の影響などにより上昇傾向が続いており、人件費についても最低賃金の引上げや賃上げの影響から負担増を訴える声が多く聞かれました。製造業の下請単価の上昇が目立ち、下請先の物価高の影響や最低賃金の影響を受けている状況です。価格転嫁を進めているものの、十分に吸収しきれていない企業もみられ、コスト上昇が経営を圧迫する状況がうかがえます。







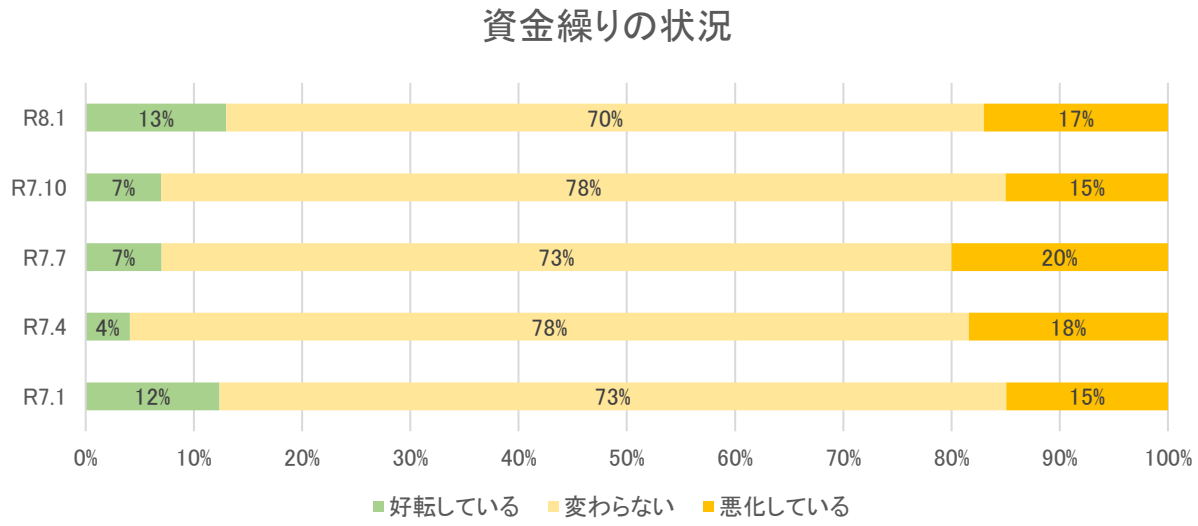


【主なコメント】
◆原材料
・売値の上昇もあるが、仕入れ値の上昇の方が上がっている（卸・小売）
・薬品、ペーパーの価格上昇（卸・小売）
・仕入れ値上昇（卸・小売）
・物価高の影響で全体的に上昇（製造）
・特にレアアースは値上がりもしているが、量的にも既に手元分も不足気味になっており、今後大きな影響が出そうである（製造）
・価格の高止まり（製造）
・加工に使う油の高騰（製造）
・メーカーの値上げ（製造）（サービス）

・原材料上昇（製造）
・アルミほか上昇（製造）
・紙製品の値上り（製造）
・春季から紙類が値上がりするらしい（製造）
・物価高の影響（製造）（宿泊・飲食）
・原材料の値上がりはないが、特殊な紙等製造自体が減ってきている（製造）
・世間的な値上がりの影響（製造）
・梱包資材の値上がり（製造）
・大豆の価格上昇（製造）
・米は 3 月頃から下がるかも（製造）
・為替、円安による影響（製造）（宿泊・飲食）（サービス）
・通常の問屋仕入だともち米は 2～3 倍だが、年間契約をしているので 1.5 倍程度に抑えることができている（製造）
・リネン類（宿泊・飲食）
・特にお米の価格上昇（宿泊・飲食）
・食品の値上げ（宿泊・飲食）
・食品、飲料の値下げが細かく続いている（宿泊・飲食）
・食材全般上昇（宿泊・飲食）
・何もかも値上げが原因（宿泊・飲食）
・酒類が上昇（宿泊・飲食）
・物価上昇のあおりは大きく受けていない（宿泊・飲食）
・インク等上昇（サービス）
◆人件費
・従業員退職による人員減（卸・小売）（製造）（サービス）
・ベースアップ（卸・小売）
・最低賃金の引上げによる上昇（卸・小売）（製造）（宿泊・飲食）（サービス）
・定期昇給（卸・小売）
・増員（卸・小売）
・賃上げ（卸・小売）（宿泊・飲食）
・残業増（製造）
・昇給（製造）（サービス）
・シフトの調整をした結果コストが高くついている（製造）
・人材が定着しない（宿泊・飲食）
・求人を出しても来ない（宿泊・飲食）
・何もかも値上げが原因（宿泊・飲食）
・要員数減のため変わらず（サービス）
◆下請け単価
・値上げ要請（製造）
・取適法により（製造）
・単価アップをやらざるを得ない（製造）
・世間的な値上がりの影響で増加（製造）
・最低賃金の引上げの影響で増加（製造）
◆その他経費
・水道光熱費上昇（卸・小売）（宿泊・飲食）（サービス）
・灯油の高騰（製造）（宿泊・飲食）
・運賃、配送費の上昇（製造）
・はかり検査費用、水光費使用料増により上昇（製造）
・前期は大きい修繕費があり今期は低下（製造）
・段ボール、外注加工賃値上がり（製造）
・物価高の影響（製造）（宿泊・飲食）
・細かな経費全般の上昇（製造）
・全体的に上昇している（製造）（サービス）
・光熱費等の上昇は落ちついてきたと思われる（宿泊・飲食）
・何もかも値上げが原因（宿泊・飲食）
・基本的に横ばいのため変わらず（サービス）
・ガソリンの値下げにともないコストダウン、軽油補助金の利用（サービス）

4　資金繰りの状況　－前年同期と比べて－（全体）

資金繰りについては、変わらないとする回答が大半を占めていますが、好転、悪化ともに増加しています。一部では、売上増加や制度資金活用により改善がみられる企業もありますが、コスト上昇の影響を受け、依然として厳しいと感じている企業もみられます。



【主なコメント】
・紙の需要は減少、単価はアップ（卸・小売）
・プラスチックは良い（卸・小売）
・キャッシュフロー的にはなんとか回せる（卸・小売）
・店舗の集約で支出が多くなり、一時的に悪化（卸・小売）
・店舗修繕（卸・小売）
・価格見直しと昨年の制度資金利用により、昨年よりは余裕がある（製造）
・売上が上がり広告費を押さえているのでキャッシュが増えている（製造）
・銀行の統合記念ノベルティ大口発注のおかげで、金融機関からの借入も完済（製造）
・昨年中に借入済のため、余裕がある。（製造）
・変わらず大変（製造）
・昨年来受注が増加している分資金繰りも楽になっている（製造）
・設備を導入したため、良くなっている（製造）
・業界的には水引商品の中でも特殊な消費であるので、価格転嫁の希望を聞いてもらいやすい。（製造）
・上昇増加したものもあったが、その上がり幅を見込んで利幅を大きくしたことでカバーすることができた（製造）
・金利上昇局面での前倒し返済実施（サービス）
・資材メーカー側の値上げがあるため原価があがる、収益が悪化している（サービス）

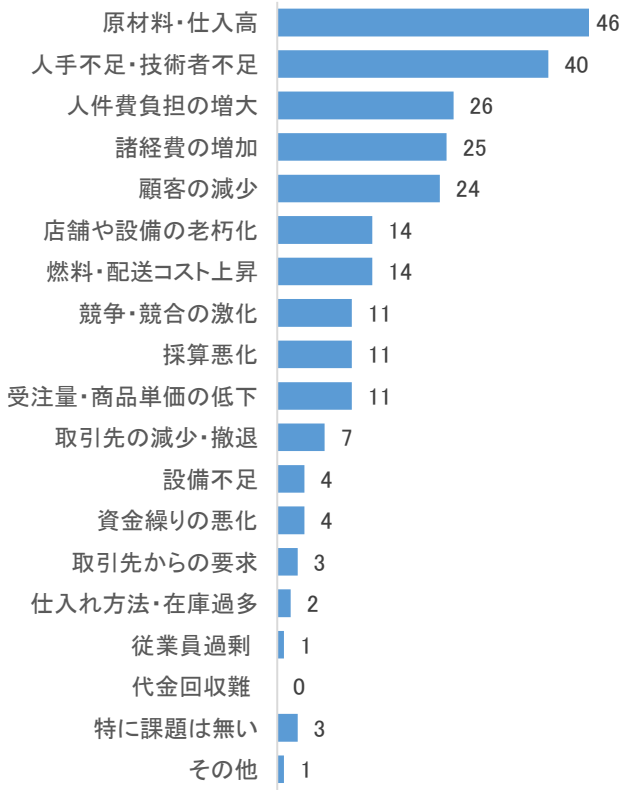
5 経営上の課題

経営上の課題としては、原材料・仕入高、人手不足・技術者不足、人件費負担の増大、諸経費の増加が引き続き上位を占めています。

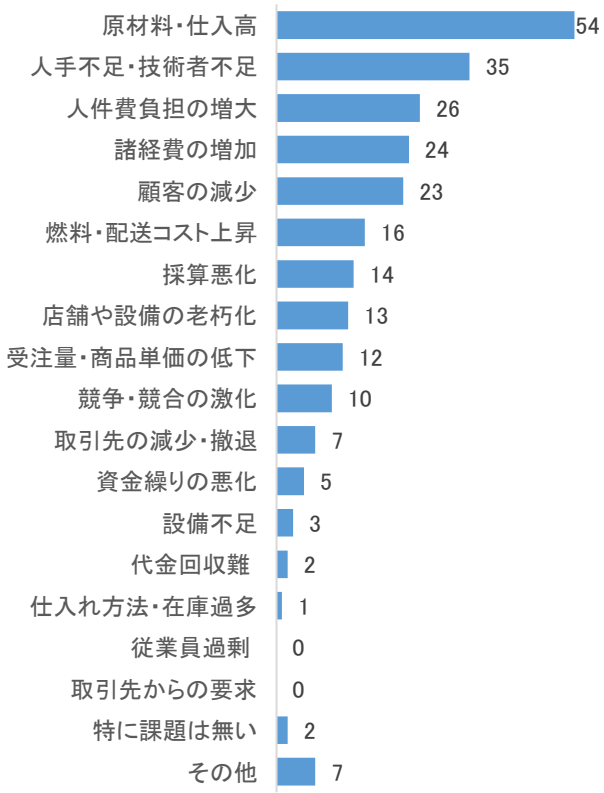
また顧客の減少や店舗・設備の老朽化を挙げる企業も多く、人口減少や人手不足、設備の老朽化といった構造的課題が、顧客数の減少やコスト面の負担と重なる状況が続いています。特に製造業や宿泊・飲食業では、コスト増により売上が回復しても収益改善につながりにくいとの声が聞かれ、経営環境の厳しさがうかがわれます。

【 R8.1 】

※3つまでの複数回答



【 R7.10 】



【主なコメント】
・ペーパーレスの社会で需要減少、コストだけのデジタル化は本来ではないと思う（卸・小売）
・メーカーの経営状況も多額の伸長は見られず変わらないと思う（卸・小売）
・原材料の値上げと共に人手不足がやや深刻になりそうである（製造）
・機械設備の老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれる（製造）
・燃料、配送コストの上昇が懸念材料。（製造）
・原材料の値上げだけでなく、供給量自体も不安がある。（製造）
・受注増に対して人手不足のため出荷制限の可能性あり（製造）
・原材料は更なる値上がりが予想される。（製造）
・売上増でも経費増により収益圧迫（宿泊・飲食）
・原材料高、人手不足など二重苦・三重苦による倒産（宿泊・飲食）
・老朽化がとても深刻で、漏水箇所が増えてきている。（宿泊・飲食）
・円安で輸入資材がまた値上げさせるか（サービス）
・社員減少による間接経費の削減（サービス）・新たな取引の引き合いもあるが、人手不足である。派遣人材にも恵まれない（サービス）

6 2026年の見通し等について

2026 年の見通しについては、全業種で「現状とあまり変わらない」とする回答が最も多く、慎重な見方が続いています。物価高騰や人手不足、労務費の増加など、経営環境の先行きが不透明な中で、なかなか好転を見込みにくい状況があるものと考えられます。一方で、製造業では比較的前向きな見通しを示す企業もみられ、業種による差が見られます。

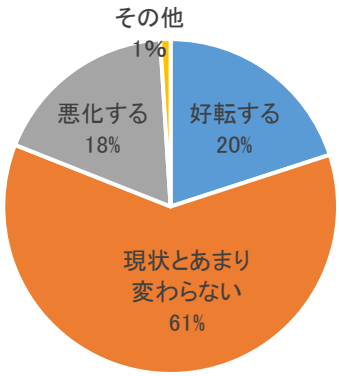
2026 年に自社が重点的に取り組みたいものとしては、人材確保が最も多く、次いで販路拡大・販路開拓、人材育成、商品・サービス開発が続いています。慢性的な人手不足への対応に加え、将来を見据えた人材育成や事業基盤の強化を重視する姿勢がうかがわれます。また、価格改定・価格交渉、コスト削減・経費見直しを挙げる企業も多く、コスト上昇への対応が引き続き重要な経営課題となっています。

地域の政策や動向の中で関心が高い項目としては、「物価高対策」が最も多く、次いで三遠南信関連事業、リニア関連事業、産業人材の確保・育成、研究機関・大学誘致活動などがあげられています。事業環境の変化に対応しながら、地域の動きや施策を経営にどう取り込むかを模索する姿勢がみられます。

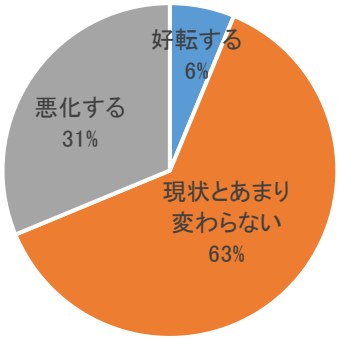
また、市内調達率については、取引の一定割合を市内事業者から調達している企業が多く、地域内での経済循環を意識した取引が行われている状況がうかがわれます。一方、前年との比較では「変わらない」とする回答が大半を占めており、市内調達率に大きな変化はみられませんでした。

（1）2026年の見通し

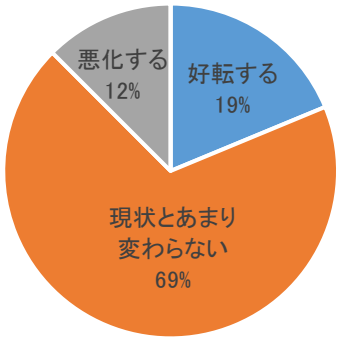
全業種



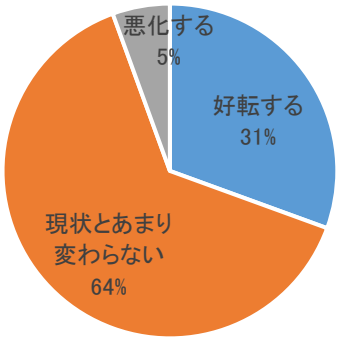
卸小売業



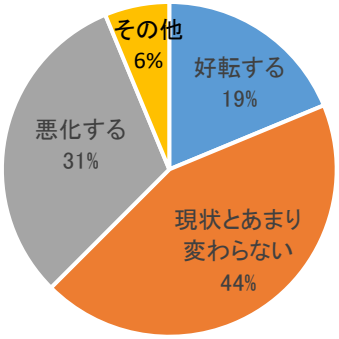
建設業



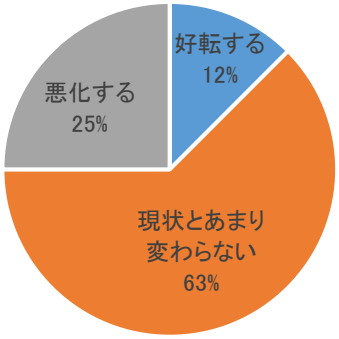
製造業



宿泊飲食業

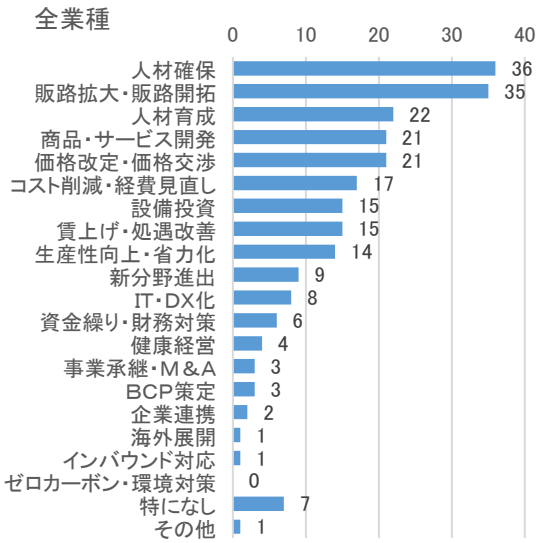


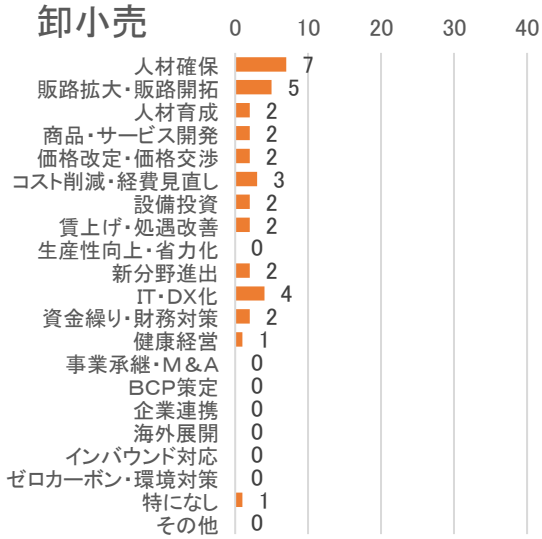
サービス業

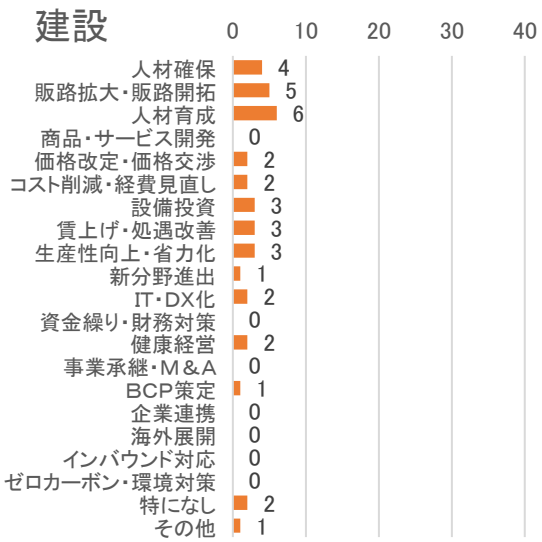


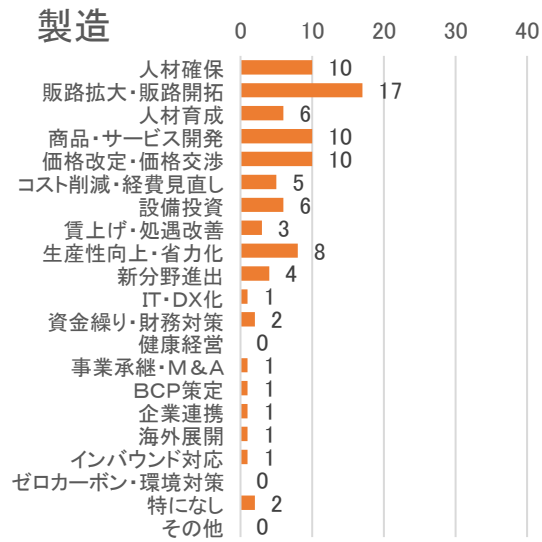
(2)2026年に自社が重点的に取り組みたいもの

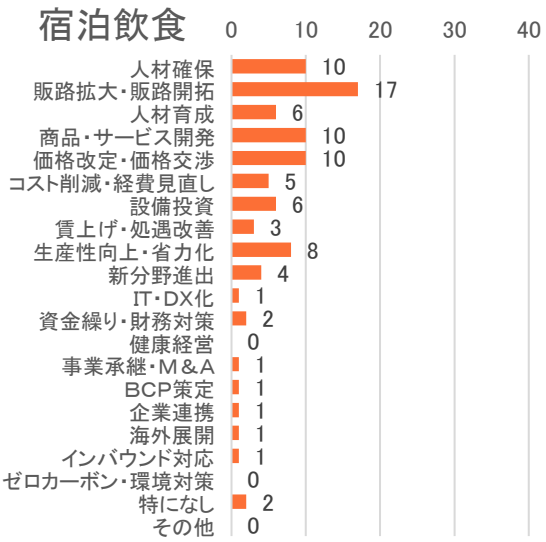
※複数回答

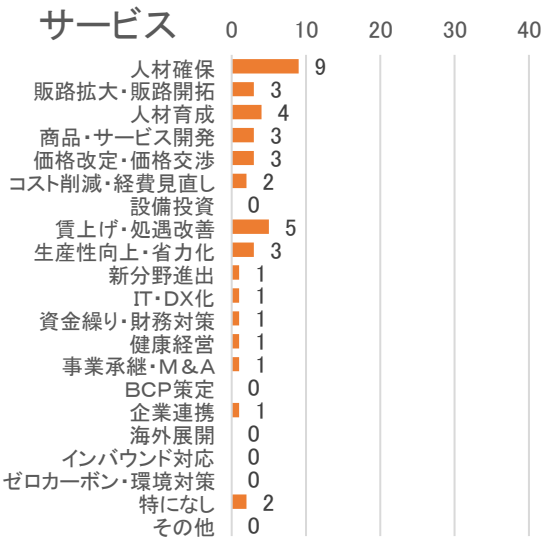








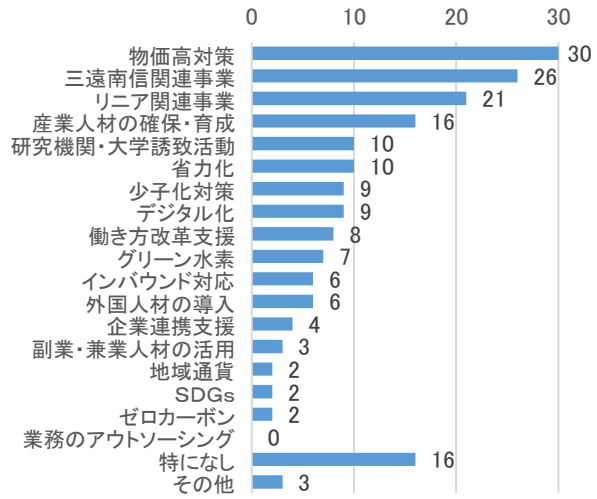




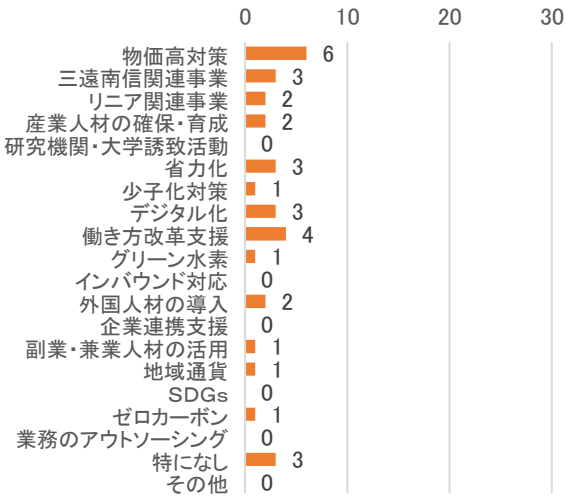
（3）地域の政策や動向の中で2026年に注目している、または関心が高い取り組み

※複数回答

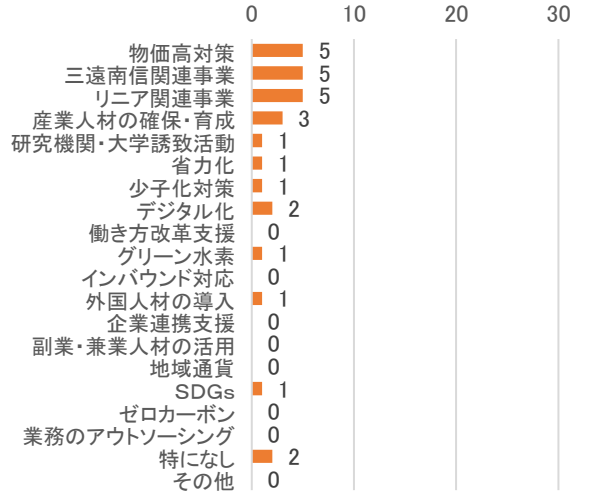
全業種



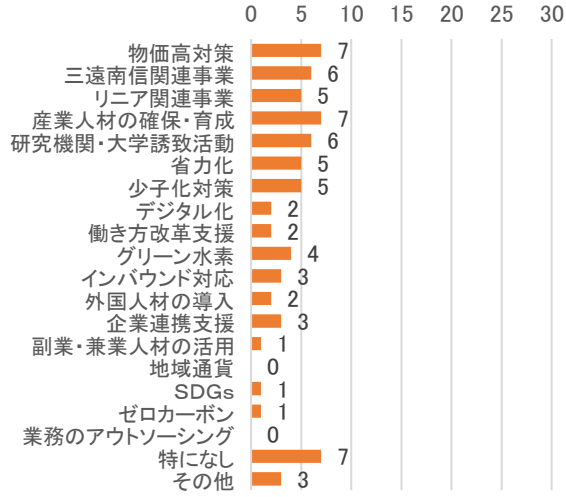
卸・小売業



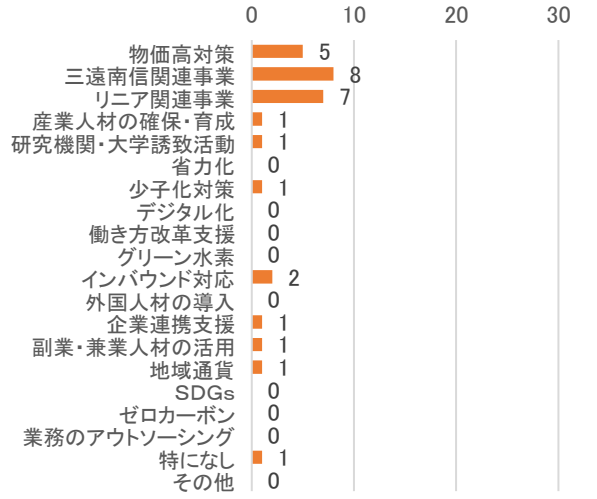
建設業



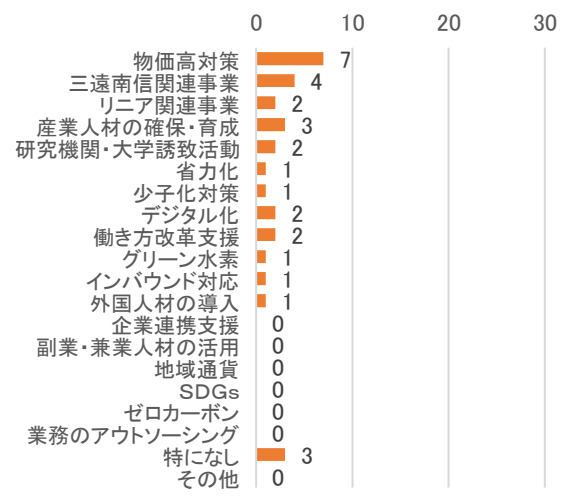
製造業



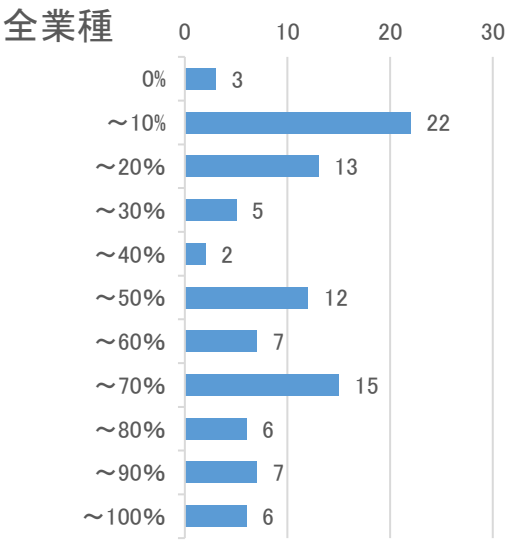
宿泊・飲食業

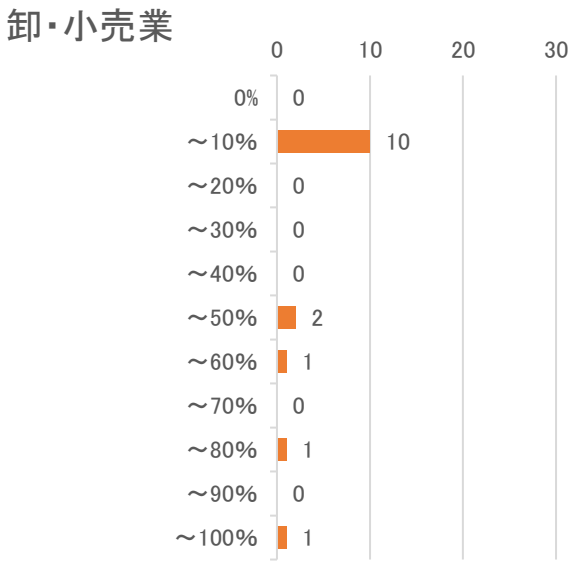


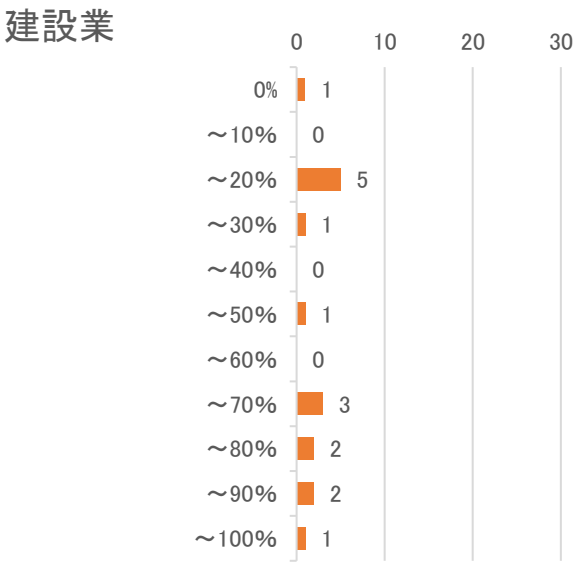
サービス業

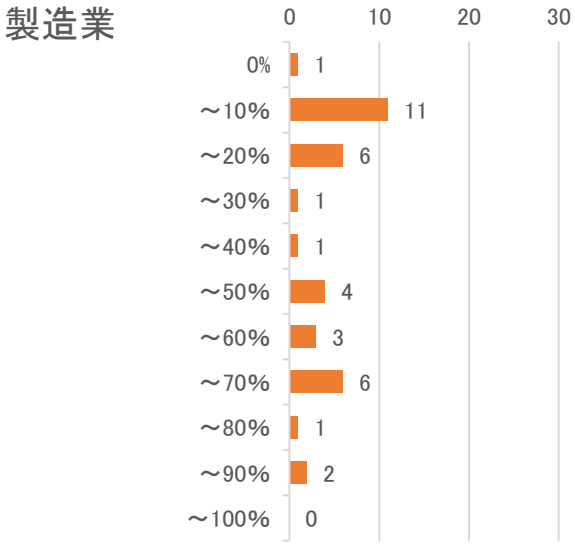


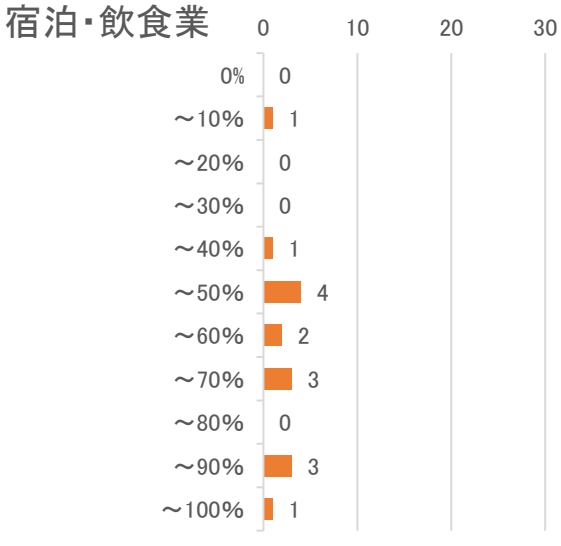
(4)昨年1年間に購入した取引のうち、市内の事業者・企業からの購入割合(市内調達率)

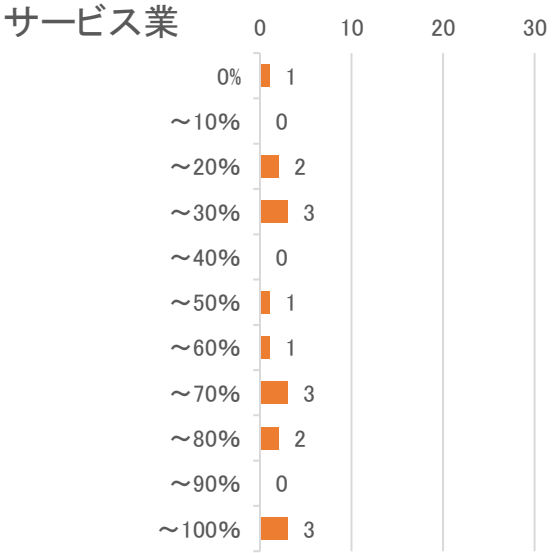




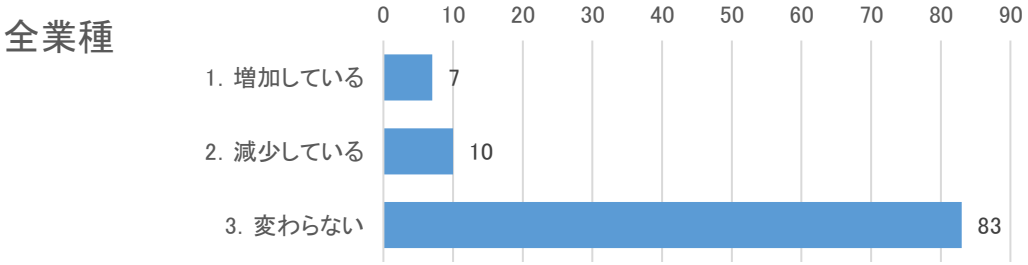




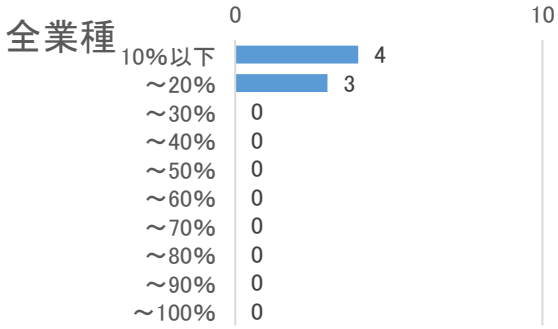




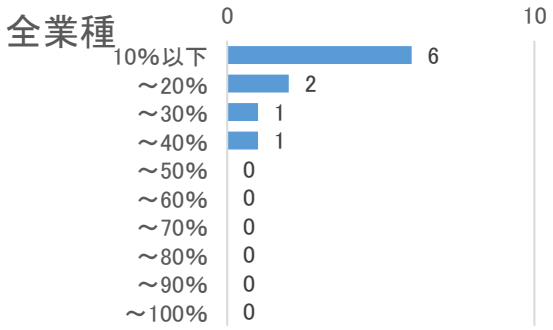
(5)昨年1年間の購入比率(4)をその前年と比較した増減



増加した率



減少した率



〇2026 年の見通し 「その他」の内容
（なし）
〇自社が 2026 年に重点的に取り組みたい事項 「その他」の内容
・業界内への自社PRと再周知（製造）
〇地域の政策や動向の中で自社が 2026 年に注目している、又は関心が高い項目や取り組み 「その他」の内容
・りんごの里に商品を卸しているがリニューアルしたことでの来店状況や売り上げの推移等について注視している（製造）
・人口の流出入への対応（製造）
・会社全体の賃金底上げによる負担増の影響（サービス）
・価格改定への消費者の抵抗感（サービス）

〇その他ご意見等
・人が定着をするような政策を望んでいる（卸・小売）
・事業所の壁面が一部剥離崩落、修繕に使える補助金があれば紹介してほしい（卸・小売）
・5～6 年前と比較して正月の松飾りがあきらかに減ってきている、生活スタイルが変わることにより伝統行事ひいては伝統工芸がどうなるのか（製造）
・地元の話題が取り上げられるような更なる仕掛けをしてほしい（製造）
・水引業界の様子をシェアして欲しい（製造）
・自社を語るなりすましメールを多数確認、得意先へ迷惑がかかるし、企業イメージの低下を招く、注意喚起をしようにもやりようがない（製造）
・飯田、下伊那は大豆、小麦の生産量がわずかしかない（製造）
・地域通貨はあってもいい、あったら導入できる、クーポン券も同様。宿泊者に対してのおみやげクーポン券みたいな制度があったら加盟したいが、どうか（宿泊・飲食）
・地域通貨は成功するのか（宿泊・飲食）
・今まで、地元の人の利用は年齢層が上の人やIターン者が多かったが、このごろ地元に残った若年層の利用が増えている（宿泊・飲食）
・地域観光資源の地元の人への利用促進を考えてほしい（サービス）